

1、経常収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約3百万円の赤字

プランとの比較

約6千万円の未達

前年度差

約9億8百万円の改善

- ・ 経常収支黒字化を第四次プランの目標として掲げていたが、令和2年度決算では約3百万円届かず未達成となった。
- ・ 第三次プランからの推移を見ると、平成30年度に大きく改善したが令和元年度に大きく悪化、令和2年度には新型コロナ関連補助金受入の影響で大きく改善するなど、変動が大きい。

経常収入・経常支出の推移

(グラフ2)



R2決算

経常収入
約300億5千7百万円

経常支出
約300億6千万円

前年度差

経常収入
約11億5千5百万円の増加

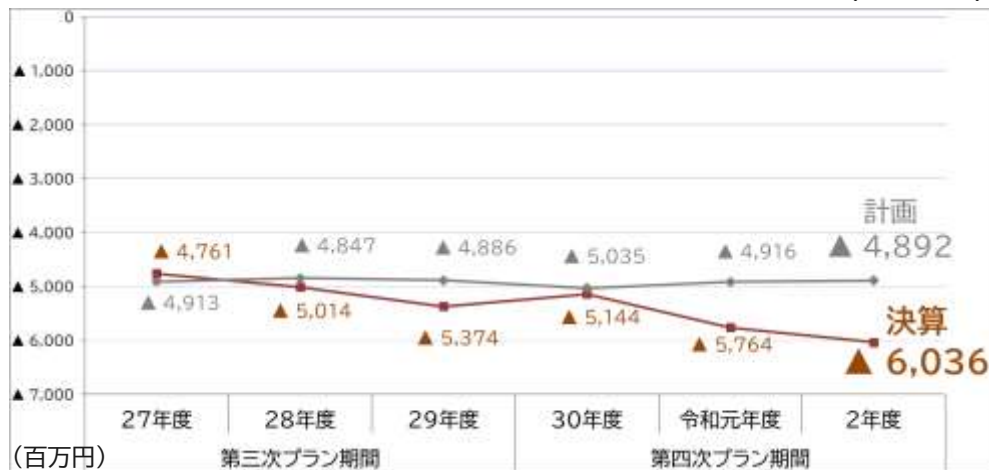
経常支出
約2億4千7百万円の増加

- ・ オプジーボやキイトルーダなどの高額抗がん剤の増加により材料費が増加しており、支出が右肩上がりが増加傾向である。
- ・ 令和2年度の収入増は新型コロナ関連補助金の影響。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(病院事業合計)

2、医業収支の推移

(グラフ3)



R2決算

約60億3千6百万円の赤字

プランとの比較

約11億4千4百万円の未達

前年度差

約2億7千2百万円の悪化

- 決算は全体として右肩下がり、特に平成30年度以降の減少が大きい。

医業収益・医業費用の推移

(グラフ4)



R2決算

医業収益
233億3千6百万円
医業費用
293億7千3百万円

前年度差

医業収益
4千9百万円の減少
医業費用
2億2千4百万円の増加

- 高額医薬品の増加や手術件数増により収益・費用ともに増加傾向であるが、平成30年度以降の収益は入院患者数減等により横ばいとなっている。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(病院事業合計)

3、入院収益・外来収益・患者数の推移

(グラフ5)



R2決算

入院収益
165億6千2百万円
延べ入院患者数
220,607人

前年度差

入院収益
3千4百万円の減少
延べ入院患者数
8,911人の減少

- 平成30年度以降は入院患者数・入院収益も減少傾向である。
- 患者一人当たりの入院収益は増加しているが、主に薬価の上昇や償還価の高い高額材料を使用する手術件数の増加によるものと考えられる。

(グラフ6)



R2決算

外来収益
61億6千5百万円
延べ外来患者数
215,848人

前年度差

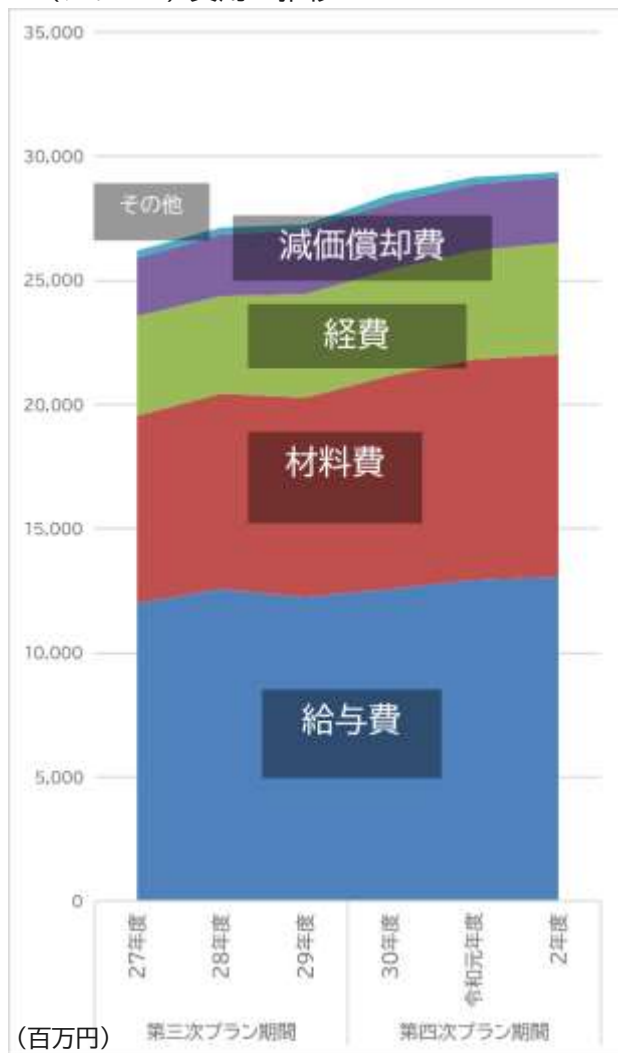
外来収益
1千9百万円の減少
延べ入院患者数
23,478人の減少

- 外来患者数は右肩下がりでもだらかに減少している。
- 患者一人当たりの外来収益は増加しているが、主に薬価の上昇によるものと考えられる。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(病院事業合計)

4、費用の推移

(グラフ7) 費用の推移



材料費

- 最も増加が大きいのが材料費。内訳(グラフ8)を見ると特に高額な抗がん剤が増加していることもあり薬品費が右肩上がりで増加している。
- 平成30年度以降は、償還価の大きい診療材料を使用する手術件数が増加しているため診療材料費が増加している。

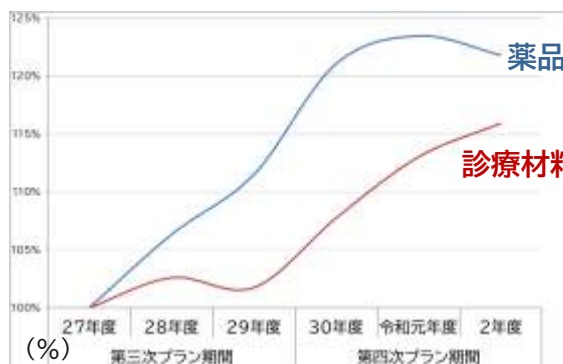
経費

- 内訳(グラフ9)を見ると、委託料の増加率が大きい。ダビンチを含む高額医療機器の保守委託費などの影響が考えられる。

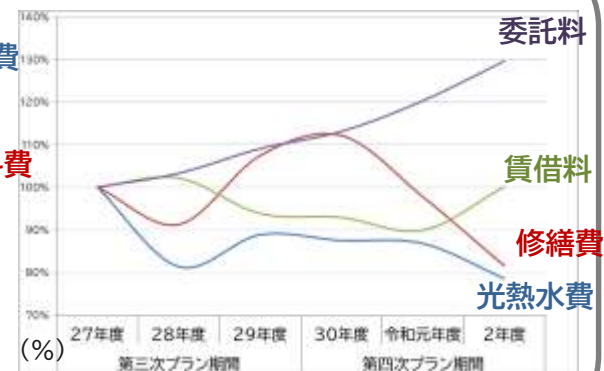
減価償却費

- 平成30年度までは増加傾向であったが、令和元年度以降減少に転じている。投資上限額設定などの取組の成果が出ていると考えられる。

(グラフ8)材料費内訳の増減率



(グラフ9)経費内訳の増減率



第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(病院事業合計)

参考:収益的収支の推移

(グラフ10)



R2決算

約1千2百万円の黒字

プランとの比較

約4千4百万円の未達

前年度差

約8億5千5百万円の改善

収益的収入・収益的支出の推移

(グラフ11)



R2決算

収益的収入
約303億9千9百万円
収益的支出
約303億8千7百万円

前年度差

収益的収入
約14億1千2百万円の増加
収益的支出
約5億5千7百万円の増加

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(病院事業合計)

5、第四次プランの主な成果

① 医療サービスの向上

○総括

- 高度専門医療に係る手術件数や治療件数などの多くの項目についてプラン目標を達成することができた。

<心臓血管センター>

- 心臓血管外科手術件数はR2年度実績で655回となり、プラン目標である500回を大きく達成。

<がんセンター>

- 手術用ロボット(da Vinci)を導入し低侵襲手術を実施。

<精神医療センター>

- 作業療法延べ参加者数はR2年度実績で17,592人となり、プラン目標である13,500人を大きく達成。

<小児医療センター>

- 母体受入確保率及び新生児受入確保率はプラン目標である100%を達成。
(他病院を含め受入先を確保できた人数/受入依頼件数)

② センター機能の強化

○総括

- 紹介、逆紹介などの地域連携やレジデントの受入等の人材育成等を積極的に実施し一定の成果を上げることができた。

<心臓血管センター>

- 紹介率はR2年度実績で77.4%となり、プラン目標である77.0%を達成。

<がんセンター>

- がんゲノム医療連携病院の指定を受け、体制を強化。

<精神医療センター>

- 作業療法士学生3名の受入。

<小児医療センター>

- 在宅療養時支援検討会議の開催等。

③ 経営の健全化

○総括

- R2年度決算について、プラン目標として掲げていた経常黒字には約3百万円ほど届かなかったが、収益的収支では病院局初の黒字達成となった。

<心臓血管センター>

- 診療材料の共同購入による価格削減。

<がんセンター>

- 入院時支援加算2や病棟薬剤業務実施加算1等の新規加算の取得。

<精神医療センター>

- 作業療法やデイケアの促進。

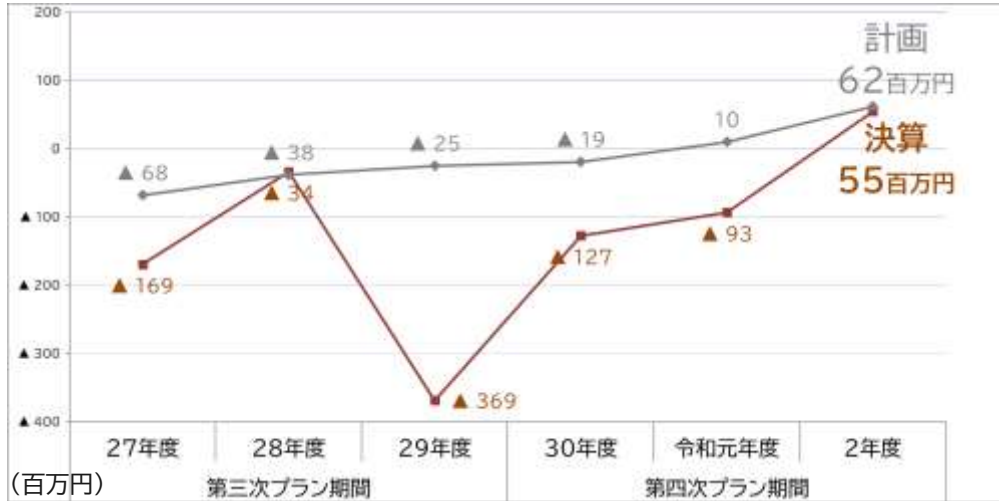
<小児医療センター>

- 新たな登録医の開拓。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

1、経常収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約5千5百万円の黒字

プランとの比較

約6百万円の未達

前年度差

約1億4千8百万円の改善

- ・ プラン目標には届かなかったものの、平成24年度以来8年ぶりの黒字となった。
- ・ 平成29年度は、手術数の減や入院患者数の減、更に電子カルテ更新の影響などもあり大きく悪化したが、その後は入院患者数や手術件数の増などにより改善傾向となっている。

経常収入・経常支出の推移

(グラフ2)



R2決算

経常収入
96億6千4百万円
経常支出
96億9百万円

前年度差

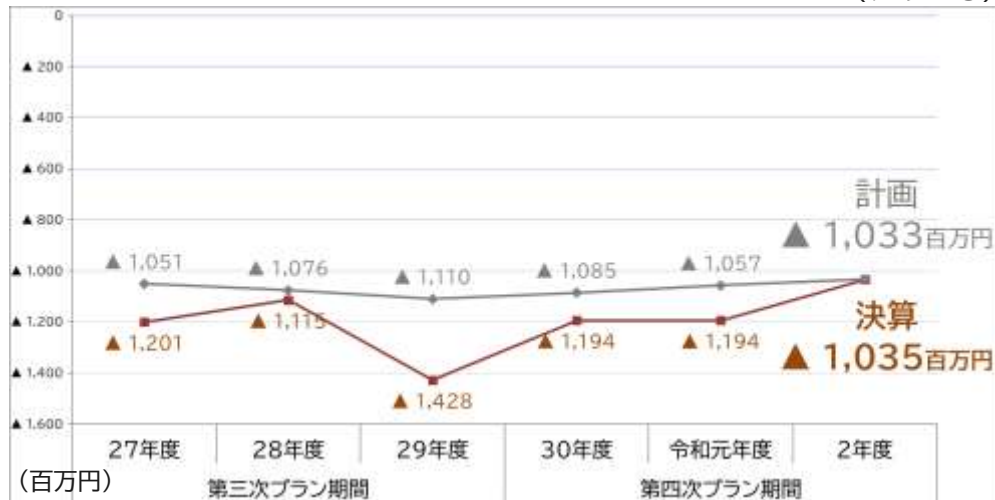
経常収入
2億5千4百万円の増加
経常支出
1億6百万円の増加

- ・ 収入・支出ともに増加傾向となっている。
- ・ 手術件数の増加に伴い、診療材料費が増加していることが主な要因と考えられる。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

2、医業収支の推移

(グラフ3)



R2決算

約10億3千5百万円の赤字

プランとの比較

約2百万円の未達

前年度差

約1億6千万円の改善

・平成30年度以降は改善傾向であり、令和2年度にはプラン目標には届かないものの前年度よりも1億6千万円の改善となった。

医業収益・医業費用の推移

(グラフ4)



R2決算

医業収益
約84億4千万円
医業費用
約94億7千5百万円

前年度差

医業収益
約2億8千万円の増加
医業費用
約1億2千万円の増加

・医業収益・費用ともに増加傾向であるが、収益の増加が費用の増加を上回っている。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

3、入院収益・外来収益・患者数の推移

(グラフ5)



R2決算

入院収益
約74億9千万円
延べ入院患者数
52,367人

前年度差

入院収益
約3億1千7百万円の増加
延べ入院患者数
1,093人の増加

- 平成30年度以降、入院患者数及び入院収益ともに増加傾向となっている。
- 手術件数について、平成30年度以降は年間3,000件を超えるなど年々増加傾向となっている。

(グラフ6)



R2決算

外来収益
約7億9千万円
延べ外来患者数
63,815人

前年度差

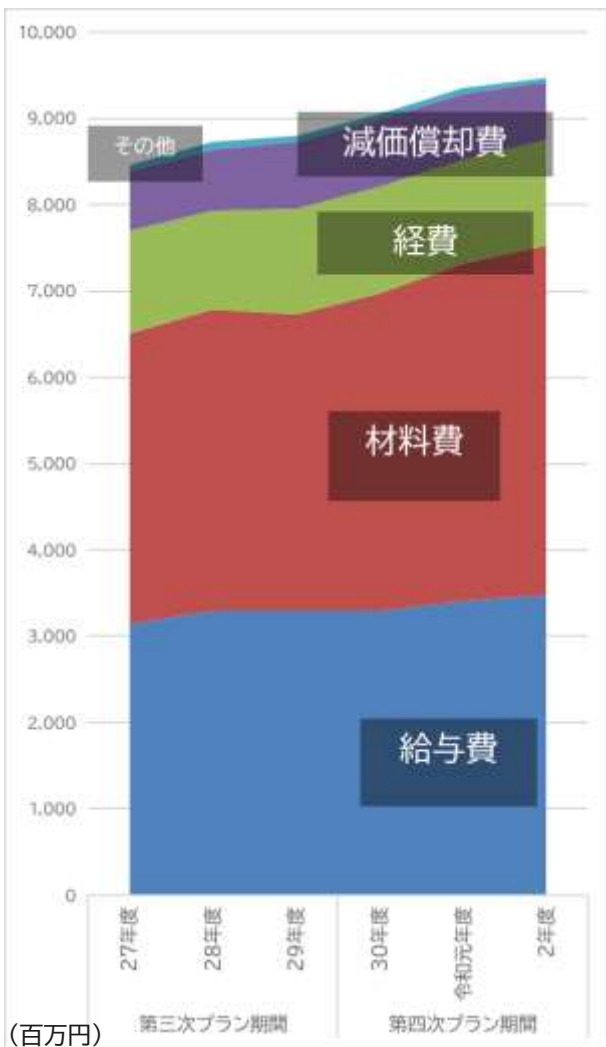
外来収益
約6千万円の減少
延べ入院患者数
7,061人の減少

- 令和2年度は、外来患者数及び外来収益ともに新型コロナウイルスの影響により大幅に減少している。
- 地域連携により逆紹介を積極的に実施していることから基本的には減少傾向となっている。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

4、費用の推移

(グラフ7) 費用の推移



材料費

- 増加幅が最も大きいのが材料費であり、内訳(グラフ8)を見ると特に診療材料費が増加している。
- また、医業収益に対する材料費比率も増加傾向となっているため、引き続き診療材料費削減の取り組みが重要となる。(H27:46.3%→R2:48.0%)

経費

- 平成29年度以降はほぼ横ばいとなっているが、内訳(グラフ9)を見ると委託料が増加傾向となっている。
- 委託料のうち、検査委託料は令和2年度から一部自主運営化により減少しており、令和4年度には完全自主運営化により更に削減される見込みである。

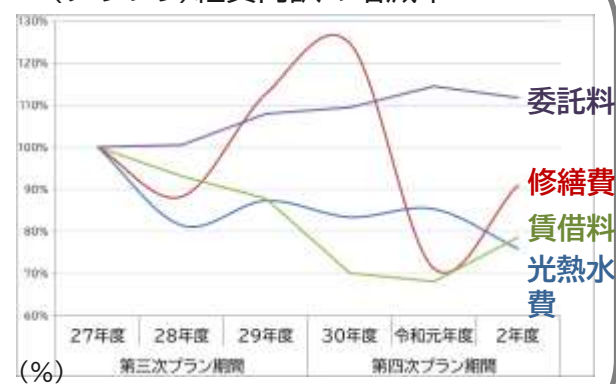
減価償却費

- 令和元年度以降減少傾向となっており、投資上限額設定などの取り組み成果が出ていると考えられる。

(グラフ8) 材料費内訳の増減率



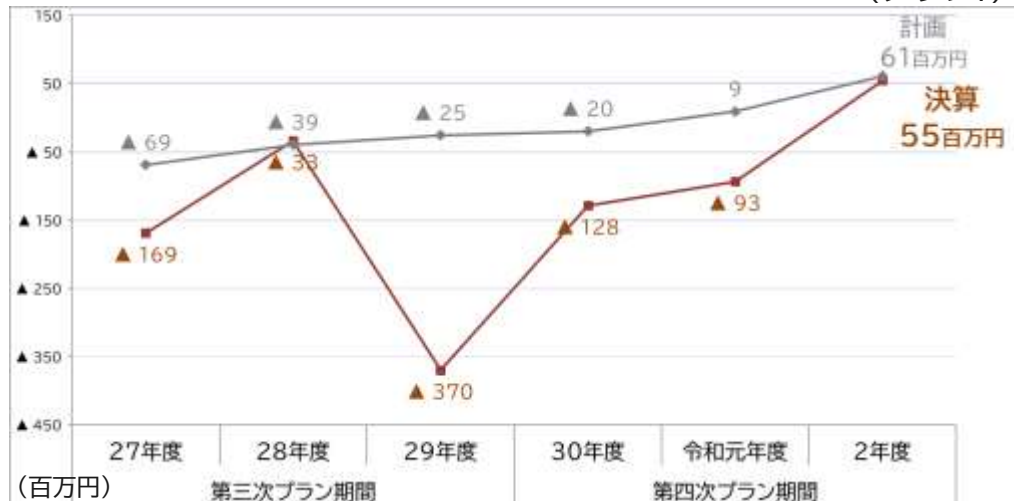
(グラフ9) 経費内訳の増減率



第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

参考:収益的収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約5千5百万円の黒字

プランとの比較

約6百万円の未達

前年度差

約1億4千8百万円の改善

収益的収入・収益的支出の推移

(グラフ2)



R2決算

収益的収入
97億7千万円
収益的支出
97億1千7百万円

前年度差

収益的収入
3億6千万円の増加
収益的支出
2億千3百万円の増加

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(心臓血管センター)

5、第四次プランの主な成果

① 医療サービスの向上

- 心臓血管外科並びに循環器内科双方の手術実績で、プランの目標値は大幅に上回った。
- ハイブリッド手術室では、TAVRやステントグラフト内挿術、リード抜去など高度・先進医療を安全に実施するとともに、運用体制が安定してきたことから、より広範な手技での活用も進んでいる。
- 個室要望の応需率を向上するため、病室運用の機動的稼働(個室増室)を実施。

② センター機能の強化

- 『24時間心疾患救急医療体制』のもと、心疾患治療の最後の砦としての役割を果たすとともに、入退院支援センターを活用した効率的な病床運営を実施した。
- 新型コロナウイルスの状況を鑑み、ウェブと会場のハイブリッド開催により症例検討会を開催して地域の登録医療機関等に最新の医療情報を提供し、診療の支援を図った。
- 心疾患医療を担う医療従事者育成のため、レジデント等(14名)を受け入れるとともに、各部門において実習生の指導を行った。

③ 経営の健全化

- 材料費削減に向け、共同購入による調達のため、診療材料等委員会が中心となり医師や看護師、事務局などが協働して取り組んだことにより、汎用14分野の切替えが完了し、還元金52,191千円と前年度を上回ることができた。
- 一層の材料費削減のため、病院局を中心に県立4病院による価格交渉委託を実施した。
- 診療収入の増加や経営を踏まえた効率的な医療提供、他院とのDPC分析比較など病院経営に関する能力向上のため、外部機関(公認会計士、コンサルタント)の積極的な活用を進めた。
- 医療の質の向上及び収入増のため診療報酬(加算)の新規取得に取り組み、令和2年度は遠隔モニタリング加算など3項目について、新たに取得を完了した。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

1、経常収支の推移



R2決算

約2億7千6百万円の黒字

プランとの比較

約1億4千3百万円の達成

前年度差

約8億3千3百万円の改善

- 新型コロナウイルス感染症患者の受入れに伴い、病床確保、人件費、感染拡大防止、診療体制確保等に要する経費について補助金を受領(9億2千万円)
- その結果、平成29年度以来の黒字となり、プラン目標を達成

経常収入・経常支出の推移



R2決算

経常収入
111億6千7百万円
経常支出
108億9千百万円

前年度差

経常収入
8億8千8百万円の増加
経常支出
5千6百万円の増加

- 収入は、新型コロナウイルス感染症関係補助金の受入により大幅に増加
- 支出は増加傾向にあり、臨床検査外部委託やコロナ病棟清掃業務委託など、委託費の増加が主な要因(委託費は前年比で+1億2千万円)

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

2、医業収支の推移

(グラフ3)



R2決算

約18億8千7百万円の赤字

プランとの比較

約8億千7百万円の未達

前年度差

約2億6百万円の悪化

平成30年度以降はプランを下回って推移し、右肩下がりの傾向となっている。

医業収益・医業費用の推移

(グラフ4)



R2決算

医業収益
約86億1千百万円
医業費用
約104億9千8百万円

前年度差

医業収益
約2億2千2百万円の増加
医業費用
約1千6百万円の増加

平成30年度以降、費用が横ばいであるのに対して収益が減少傾向にあり、収支の差が拡大している。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

3、入院収益・外来収益・患者数の推移

(グラフ5)



R2決算

入院収益
約40億1千3百万円
延べ入院患者数
65,643人

前年度差

入院収益
約2億4千2百万円の減少
延べ入院患者数
6,743人の減少

- 患者数は減少傾向。令和2年度はコロナの影響で減少幅が拡大(前年比▲9.3%)。
- 収益も減少傾向だが、入院単価は上昇しており、患者数より減少幅は抑制(前年比▲5.7%)

(グラフ6)



R2決算

外来収益
約43億3千6百万円
延べ外来患者数
85,684人

前年度差

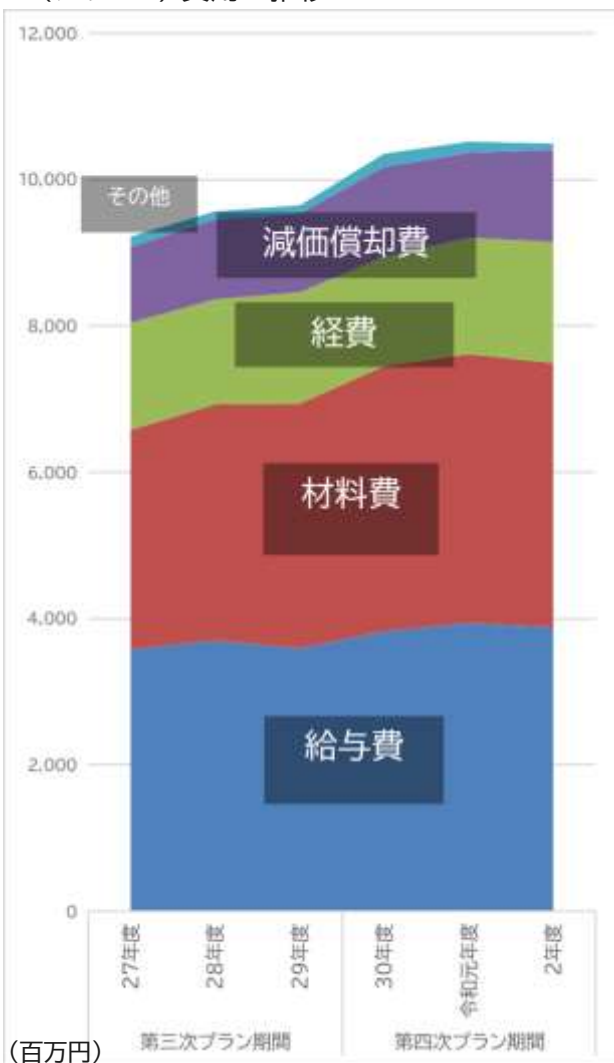
外来収益
約5千9百万円の増加
延べ外来患者数
9,728人の減少

- 患者数は減少傾向。令和2年度はコロナの影響で減少幅が拡大(前年比▲10.2%)。
- 一方、収益は増加傾向(前年比+1.4%)。高額な薬品の使用や遺伝子検査増により、外来単価が上昇

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

4、費用の推移

(グラフ7) 費用の推移



材料費

- 患者数減の影響で令和2年度は減少したが、材料費は増加傾向にあり、特に薬品費の伸び率が大きい。
- 適応拡大によりオブジーボの使用量が増加するなど、高額薬品の使用が増えている。

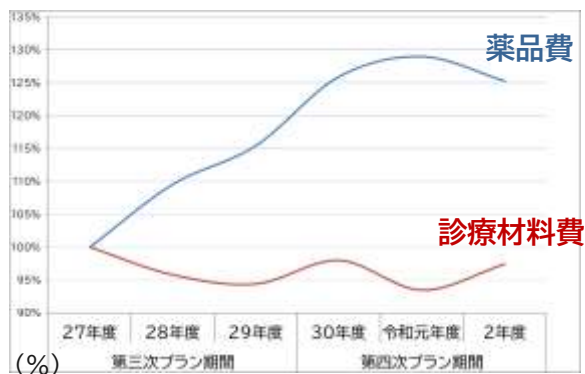
減価償却費

- 高額医療機器や電子カルテの償却期間の開始等に合わせて変動。平成30年度は電子カルテの償却開始、令和2年度はダビンチの償却開始により増大。

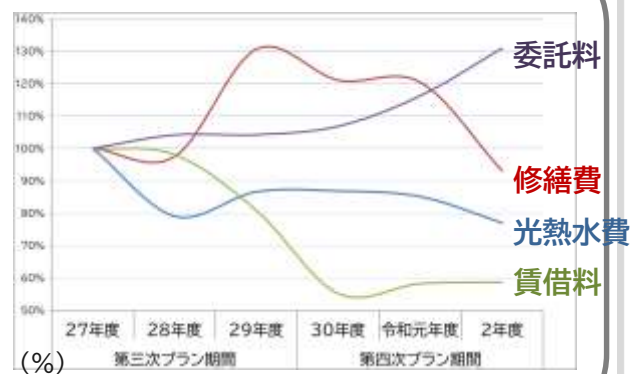
経費

- 委託料の増加率が高い。がんゲノム医療など外部委託が必要な検査の増や高額医療機器の保守経費増などが原因

(グラフ8) 材料費内訳の増減率



(グラフ9) 経費内訳の増減率



第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

参考:収益的収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約2億9千万円の黒字

プランとの比較

約1億5千8百万円の達成

前年度差

約8億3千7百万円の改善

収益的収入・収益的支出の推移

(グラフ2)



R2決算

収益的収入
113億1千5百万円
収益的支出
110億2千5百万円

前年度差

収益的収入
10億2千5百万円の増加
収益的支出
1億8千8百万円の増加

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(がんセンター)

5、第四次プランの主な成果

① 医療サービスの向上

- 手術、化学療法、放射線の効果的な組み合わせ治療を実施するとともに、適切な緩和医療を組み合わせ、最適な医療提供に努めた。
- 手術用支援ロボットを導入し、最先端の低侵襲手術を患者に提供している(R2年度165件手術実施(R1年度60件))。令和2年度は、手術用支援ロボットによる胃切除術や膀胱悪性腫瘍手術についての加算の届出を新たに行った。

② センター機能の強化

- 「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、中長期的な患者数の維持・増加のため治験や臨床体制の強化を図った。(R2年度エキスパートパネル79件実施(R1年度61件))
- 「ホスピタルコンシェルジュ」を配置し、受診方法や各種手続き等の補助、院外処方箋FAX送信、土曜日午前中の初診受付業務(R2年度156件新患予約)などを行った。

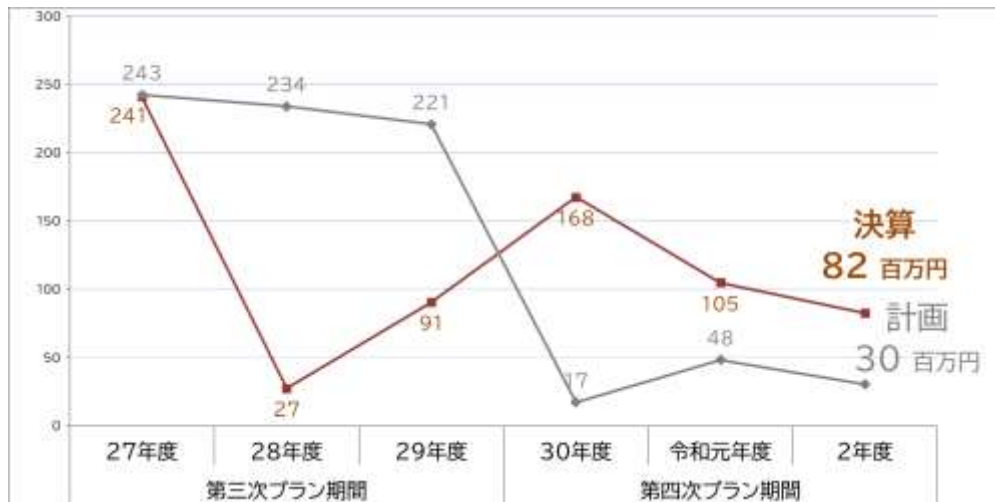
③ 経営の健全化

- 新規施設基準、加算点数の届出による増収の取り組みを実施した。
- 入院時支援加算2(200点。R2. 4から算定。月40万円増)、病棟薬剤業務実施加算1(120点。R2. 6から算定。月110万円増)、ハイケアユニット入院医療管理料1(6855点。R2.12から算定。月400万円)など
- 医薬品の値引き交渉により、R2年度は7,109万円の削減効果(R1年度:6,151万円の削減)
- NHA(日本ホスピタルアライアンス)加盟による診療材料の共同購入により、R2年度は482万円の削減効果(R1年度:330万円の削減)
- 「がん診療連携医・連携病院制度」を通じ、患者紹介及び逆紹介や放射線機器等の共同利用等を支援することでより強固なパートナーシップ構築に努めた。(R3.3時点で322医療機関登録)
- 経営分析システムを活用し、院内における経営課題を分析・把握する体制の構築を図った。
- 収益確保のため、院長公社跡地を売却(1,440万円)

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

1、経常収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約8千2百万円の黒字

プランとの比較

約5千2百万円の達成

前年度差

約2千3百万円の悪化

- 平成27年度から6期連続で経常収支の黒字化を達成。
- 第四次プラン期間については、いずれの年も目標を達成。

経常収入・経常支出の推移

(グラフ2)



R2決算

経常収入
28億9千5百万円
経常支出
28億1千2百万円

前年度差

経常収入
約1千4百万円の増加
経常支出
約3千5百万円の増加

- 医業収益は減少したものの、一般会計繰入金や新型コロナウイルス関連補助金により医業外収益が増加。
- 職員増による給与費の増や、委託料の増により支出は増加。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

2、医業収支の推移

(グラフ3)



R2決算

約7億6千百万円の赤字

プランとの比較

約2千6百万円の達成

前年度差

約8千百万円の悪化

・ 第四次プランの期間はいずれも目標値を達成したが、
 ・ 主に医業費用の増加により目標値との差は徐々に縮小。

医業収益・医業費用の推移

(グラフ4)



R2決算

医業収益
 約19億8千3百万円
 医業費用
 約27億4千3百万円

前年度差

医業収益
 約2千9百万円の減少
 医業費用
 約5千2百万円の増加

・ 医業収益は、新型コロナの影響による患者数の減少を反映。(▲1.4%)
 ・ 医業費用の増加は、主に給与費及び委託料の増加によるもの。(▲1.9%)

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

3、入院収益・外来収益・患者数の推移

(グラフ5)



R2決算

入院収益
約17億4千3百万円
延べ入院患者数
63,165人

前年度差

入院収益
約4百万円の減少
延べ入院患者数
3,224人の減少

- ・新規入院患者は増加(+39人)したものの、平均在院日数の短縮(▲11.5日)により延べ患者数は減少。(▲4.9%)
- ・入院単価の増(+1,276円/人)により入院収益は微減に留まった。(▲0.2%)

(グラフ6)



R2決算

外来収益
約2億1千2百万円
延べ外来患者数
22,281人

前年度差

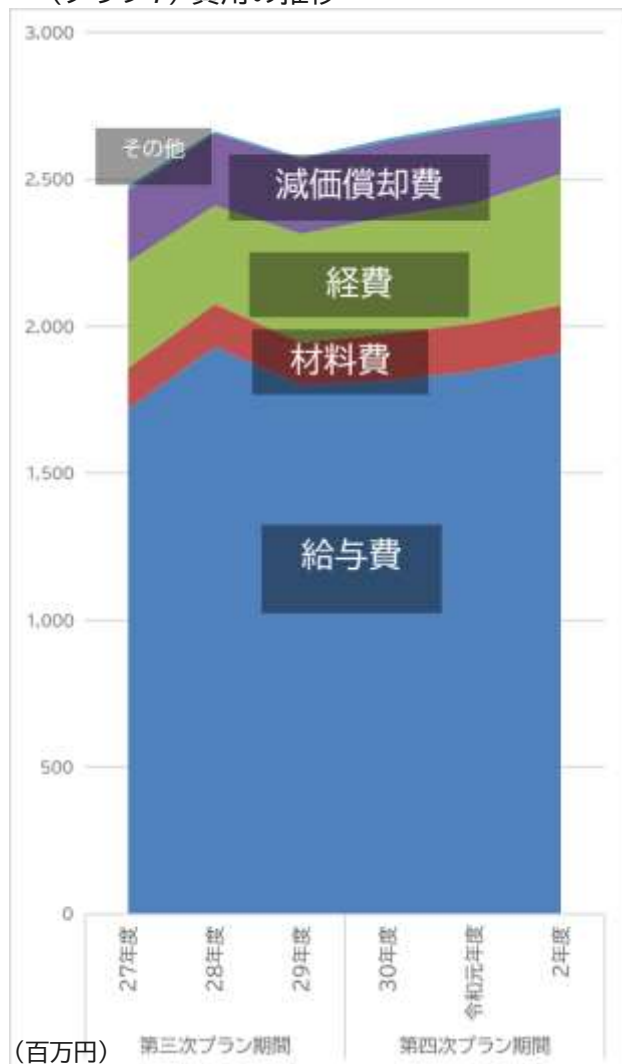
外来収益
約2千3百万円の減少
延べ外来患者数
3,127人の減少

- ・新型コロナウイルスの影響により、精神科一般外来の患者数は▲1,166人減少。(▲6.4%)
- ・デイケアについてもR2年4月～5月は休止するとともに、再開後も参加人数の上限を半減したため、▲1,949人減少。(▲35.1%)

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

4、費用の推移

(グラフ7) 費用の推移



経費

- 給食業務委託の切り替えに伴い、委託料が大きく増加。
(R1:48,396千円→R2:79,035千円 +30,639千円)
- 電子カルテシステム耐用期間超過に伴い保守委託料が増加。
(R1:16,800千円→R2:22,680千円 +5,880千円)
- 委託料以外の費用については、概ね横這い。

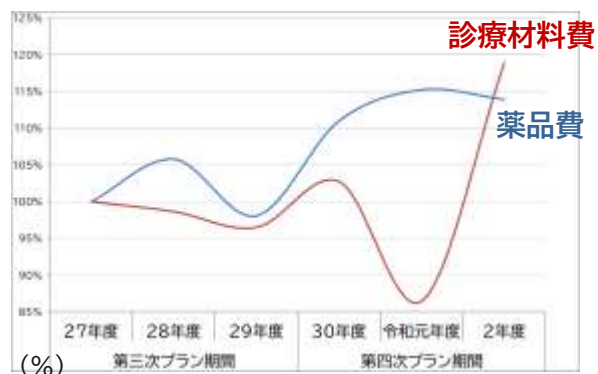
材料費

- 新型コロナウイルスの影響により、マスクやビニール手袋等の診療材料の価格が高騰し、診療材料費が大きく増加。(R1:10,013千円→R2:13,763千円 +3,750千円)
- 薬品費は患者数減により減少し、材料費全体では▲492千円

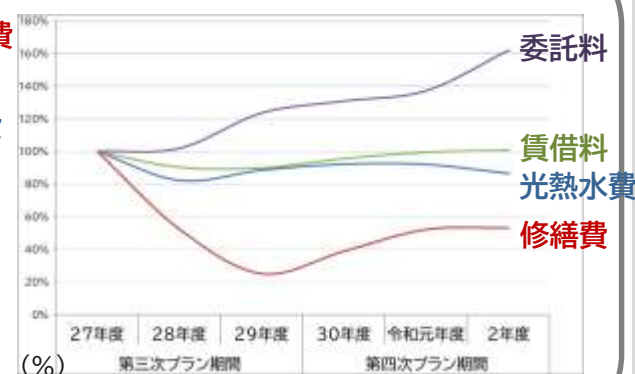
減価償却費

- 電子カルテシステム等の償還期間終了に伴い大きく減少。
(R1:260,092千円→R2:198,206千円 ▲61,886千円)

(グラフ8) 材料費内訳の増減率



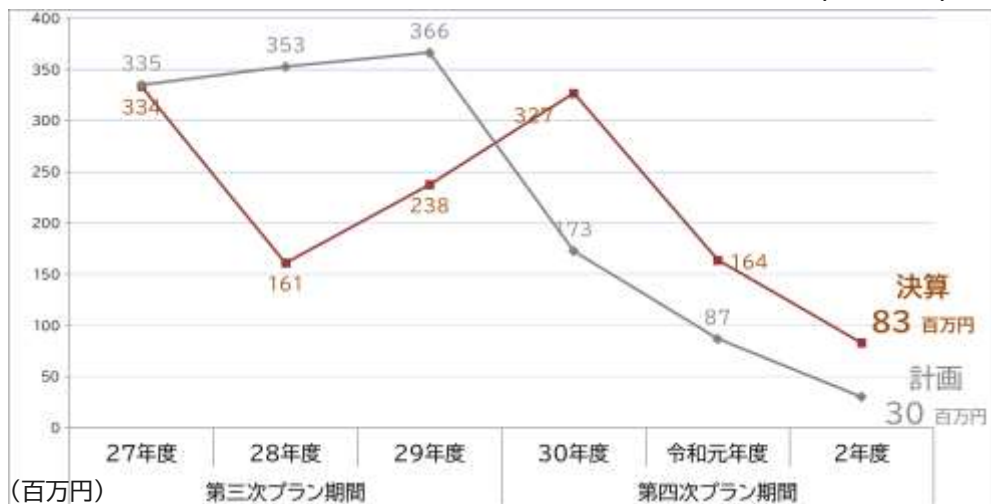
(グラフ9) 経費内訳の増減率



第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

参考:収益的収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約8千3百万円の黒字

プランとの比較

約5千3百万円の達成

前年度差

約8千百万円の悪化

収益的収入・収益的支出の推移

(グラフ2)



R2決算

収益的収入
29億2千5百万円
収益的支出
28億4千万円

前年度差

収益的収入
約千6百万円の減少
収益的支出
約6千5百万円の増加

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(精神医療センター)

4、第四次プランの主な成果

① 医療サービスの向上

【看護部】

訪問看護件数はプランの達成には至らなかったものの、病棟からも積極的に参加し、コロナ禍において令和元年度よりも件数を増やすことができた。

【リハ課】

- 作業療法に延べ17,952人が参加し、生活リズムを整え、対人関係の改善、情緒の安定、意欲・体力を向上させることで病状を安定させ、退院へと繋げた。
- コロナ禍により、警戒レベルに応じてデイケアを一時中止したものの、新生活様式・感染予防を周知徹底しデイケア利用者から感染者を出すことなく実施することができた。デイケアに延べ2,779人(デイケア新規登録者16人)が参加し、生活リズムを整え、対人関係の改善を図り、自分の健康状態を管理が出来るようにすることで患者の病気の再発予防と地域で安定した生活が送れるよう支援した。

【心理判定課】

延べ870回の心理療法を行い、疾病教育プログラムや各種治療プログラム、個別心理面接に積極的に取り組んだことにより、当事者の主体的な再発予防や問題解決につなげることができた。

【栄養調理課】

入院患者のミールラウンドに積極的に取り組んだことにより、摂食機能に見合った食形態や食事に対する要望等の相談ができた。

【薬剤部】

入院患者1,587名(計画1,350名)に対して服薬指導を実施し、症状の把握に努めるとともに、継続して服薬することの重要性を伝え、適切な服薬ができるよう支援した。

② センター機能の強化

【看護部】

- コロナの影響で看護学生の受け入れが一部中止となったが、下期には感染対策を行うことで受け入れることができた。
- 精神科認定看護師以外の認定看護師を出すことができた。

【リハ課】

- 作業療法士の業務体制・業務の見直しを実施し作業療法士学生3名の受け入れ、人材育成に繋げた。

③ 経営の健全化

【全体】

- 職員各自が時間外勤務の縮減に努め、時間外勤務時間は前年度比▲38.4%とすることができた。(① 4,547h→② 2,802h)

【看護部】

- 各病棟で計画的に退院前訪問を実施し、目標値(195回)を大幅に上回る実績(299回)をあげることができた。

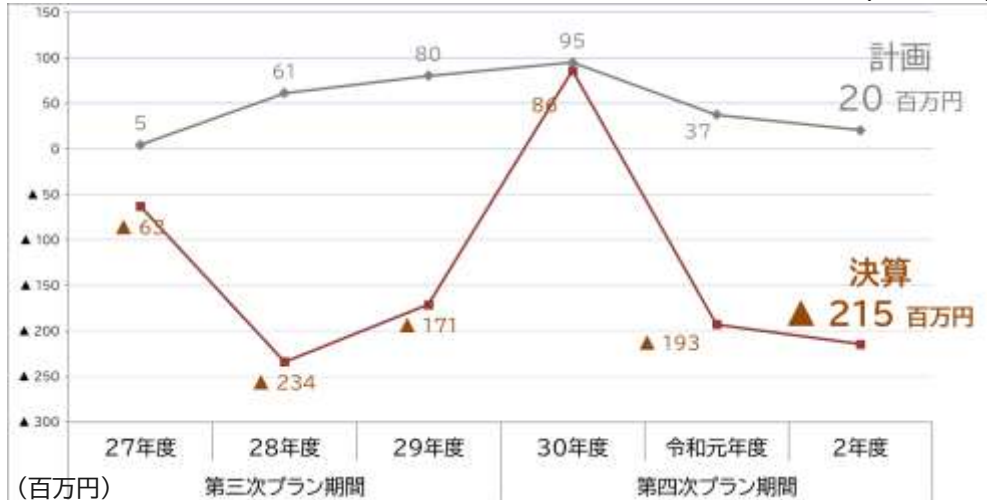
【リハ課】

- 作業療法及びデイケアへの積極的な参加を促すことにより、収益拡大に繋げた。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

1、経常収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約2億1千5百万円の赤字

プランとの比較

約2億3千5百万円の未達

前年度差

約2千2百万円の悪化

- 平成30年度は黒字化を達成したものの、それ以外の年度は赤字となっており、プラン目標にも届かなかった。
- 令和元年度の後半以降は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、患者数が減少したため、収支が悪化する結果となった。

経常収入・経常支出の推移

(グラフ2)



R2決算

経常収入
約63億1千8百万円
経常支出
約65億3千3百万円

前年度差

経常収入
約2千万円の増加
経常支出
約4千2百万円の増加

- 収入、支出ともに増加傾向となっているが、特に支出については6年間で約10%と大きく増加している。
- 支出の増加については、職員数の増加などに伴う給与費の増加や、各種業務委託料の増加、医療機器更新に伴う減価償却費の増加などが主な要因として考えられる。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

2、医業収支の推移

(グラフ3)



R2決算

約21億3千8百万円の赤字

プランとの比較

約3億3千6百万円の未達

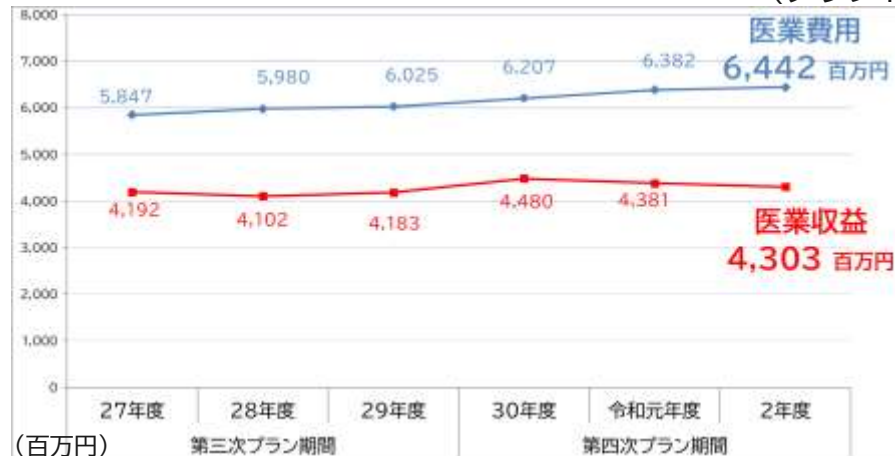
前年度差

約1億3千7百万円の悪化

- 平成30年度は概ねプランどおりの結果となったが、それ以外の年度はプラン目標を下回っており、全体的には右肩下がり傾向となっている。

医業収益・医業費用の推移

(グラフ4)



R2決算

医業収益
約43億3百万円
医業費用
約64億4千2百万円

前年度差

医業収益
約7千7百万円の減少
医業費用
約6千万円の増加

- 医業収益、医業費用ともに増加傾向となっていたが令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により収益は伸び悩み、医業収支の改善には至らなかった。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

3、入院収益・外来収益・患者数の推移

(グラフ5)



R2決算

入院収益
約33億1千6百万円
延べ入院患者数
39,432人

前年度差

入院収益
約1億4百万円の減少
延べ入院患者数
37人の減少

- 入院患者数は、年度ごとに大きな増減があるものの概ね年間40,000人程度で推移している。
- 入院収益についても、入院患者数に比例して増減しているが、令和元年度の後半以降は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、患者数が減少したため収益は減少した。

(グラフ6)



R2決算

外来収益
約8億2千8百万円
延べ外来患者数
44,068人

前年度差

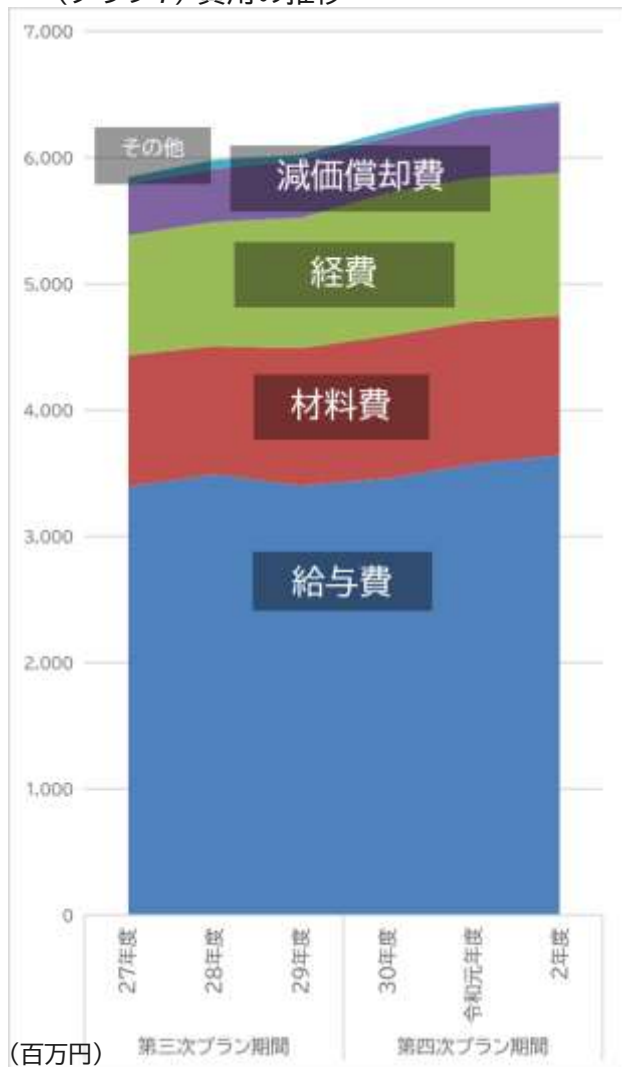
外来収益
約5百万円の増加
延べ入院患者数
3,562人の減少

- 外来患者数は、概ね年間47,000人程度で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えにより、患者数が大幅に減少した。
- 外来収益は増加傾向にあり、患者数が減少した昨年度についても、薬剤などの長期処方希望する患者が増加し、単価が上昇したため、収益は増加した。

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

4、費用の推移

(グラフ7) 費用の推移



材料費

- グラフ8を見ると、診療材料費はほぼ横ばいで推移しているのに対し、薬品費は平成29年度以降、大きく増加している。
- 薬品費が増加した理由は、平成29年度の1月から、高額医薬品であるスピラザの使用を開始した影響が大きい。

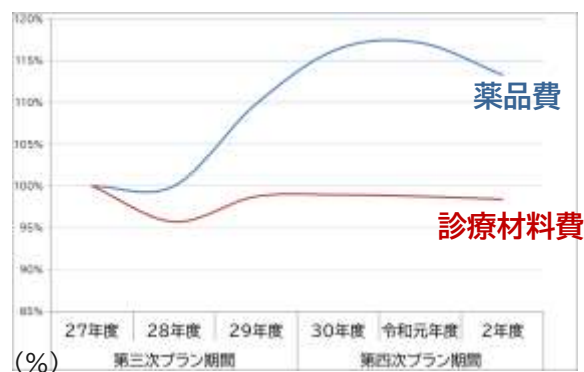
経費

- グラフ9を見ると、委託料と賃借料の増加率が高い。
- 委託料は、給食業務委託や医事業務委託、医療機器保守委託の金額が増加しており、賃借料は、在宅療養に係る人工呼吸器等の賃借が増加した影響が大きいと考えられる。

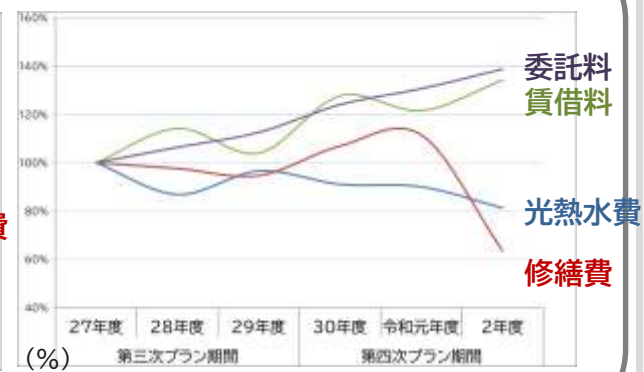
減価償却費

- 減価償却費は年々増加傾向にあり、増加率が最も高い。
- 特に近年は、MRI装置などの高額な医療機器の更新や、施設の改良工事に伴い、大きく増加している。

(グラフ8) 材料費内訳の増減率



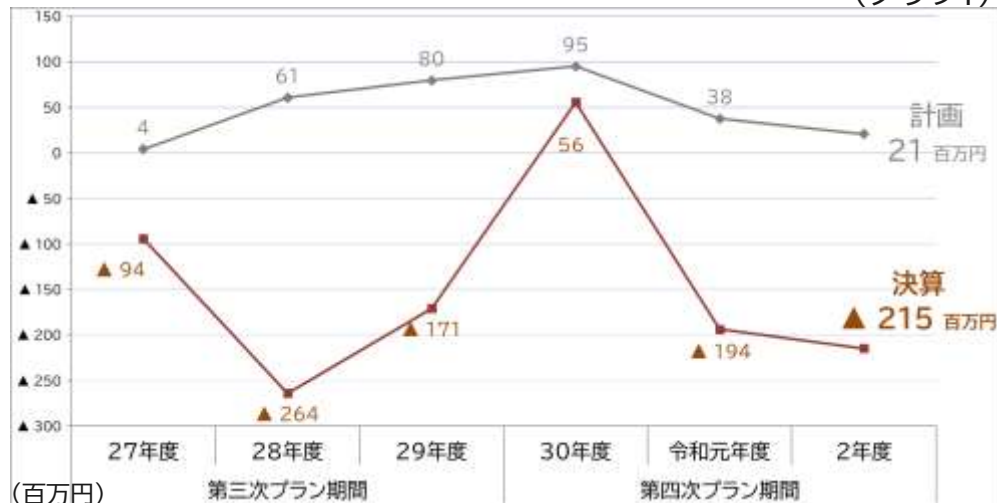
(グラフ9) 経費内訳の増減率



第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

参考:収益的収支の推移

(グラフ1)



R2決算

約2億1千5百万円の赤字

プランとの比較

約2億3千6百万円の未達

前年度差

約2千百万円の悪化

収益的収入・収益的支出の推移

(グラフ2)



R2決算

収益的収入
約63億7千5百万円
収益的支出
約65億9千万円

前年度差

収益的収入
約6千2百万円の増加
収益的支出
約8千3百万円の増加

第四次群馬県県立病院改革プランの取組結果について(小児医療センター)

5、第四次プランの主な成果

① 医療サービスの向上

- 各病棟の連携による効率的な病床運用を行ったことにより、PICUの特定集中治療室管理料算定患者数が増加した。(R1:928人→R2:951人)
- 感染が拡大している新型コロナウイルスなどの感染症に対し、院内の感染防止対策を強化するため、感染対策マニュアルの改訂を行うとともに、正面入口での検温を実施するなど、感染対策を徹底した。

② センター機能の強化

- 認定研修施設として、小児医療に従事する専門的な知識を持った人材を育成するため、研修生や実習生を積極的に受け入れているが、R2は新型コロナウイルスの影響により、受入人数が減少した。
- 在宅療養児支援検討会議の開催や、患者や家族等に対する相談・助言の積極的な実施など、在宅療養を支援する取組を推進した。また、入退院支援加算3の施設基準の要件を満たし、算定が可能となった。

③ 経営の健全化

- 患者数確保のため、病院幹部が県内小児科医が多数参加する会議等に出席した際、当センターのPR活動を行うとともに、新たな登録医の開拓などの取組を継続した。
- 診療材料の共同購入組織を活用し、院内の診療材料検討委員会において、より安価な共同購入品への切替を進めた。また、診療材料費のさらなる削減に向けて、価格交渉支援委託を導入し、価格交渉を強化した。